

めぐみイエス・キリスト教会

2022年3月20日(日)第三主日礼拝・午後2時
週報「通算第600号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌266「罪、咎を赦され」 p. 418

【交読文】 No.17 詩篇第46篇 p. 892

【賛美Ⅱ】 新聖歌103「わがためイエス君」 p. 143

【使徒信条・主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き15章30節～41節(新約p. 266下段)

【礼拝説教】 《第二回伝道旅行への出発》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き15章30節～41節)

15:30 さて、一行は送り出されてアンティオキアに下り、教会の会衆を集めて手紙を手渡した。

15:31 人々はそれを読んで、その励ましの言葉に喜んだ。

15:32 ユダもシラスも預言者であったので、多くの言葉をもって兄弟たちを励まし、力づけた。

15:33 二人は、しばらく滞在した後、兄弟たちの平安のあいさつに送られて、自分たちを遣わした人々のところに帰って行った。

15:34 【本節欠如】

15:35 パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって、ほかの多くの人々と共に、主の言葉を教え、福音を宣べ伝えた。

15:36 それから数日後、パウロはバルナバに言った。「さあ、先に主の言葉を宣べ伝えたすべての町で、兄弟たちがどうしているか、また行って見て来ようではありませんか。」

15:37 バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネと一緒に連れて行くつもりであった。

15:38 しかしパウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよいと考えた。

15:39 こうして激しい議論になり、その結果、互いに別行動をとることになった。バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行き、

15:40 パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。

15:41 そしてシリアおよびキリキアを通り、諸教会を力づけた。

●ポイント1.「本文欠如」とは？

※使徒の働き15章34節「異本の写本から」

15:34 しかし、シラスはそこにとどまることを決めた。

●ポイント2.「パンフィリアで帰ってしまったマルコ」とは？

※使徒の働き13章13節「ペルゲから別の舟で」 (新約p.260上段)

13:13 パウロの一行は、パポスから船出してパンフィリアのペルゲに渡ったが、ヨハネは一行から離れて、エルサレムに帰ってしまった。

●ポイント3. なぜ伝道チームが二つに分かれたのか、その結末とは？

※使徒の働き4章36節「キプロス生まれのレビ人」 (新約p.240下段)

4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちにバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていた。

※第Ⅱテモテ4章11節「ローマの獄中から」 (新約p.429下段)

4:11 ルカだけが私と共にいます。マルコを伴って、一緒に来て下さい。彼は私の務めのために役に立つからです。

※ローマ人への手紙8章28節「使徒パウロの勧め」 (新約p.310下段)

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

◎先週の礼拝メッセージの概要【教会からの最初の手紙】

《第一回エルサレム教会会議の場面からです。主の兄弟ヤコブの発言、シモン・ペテロの発言、そしてパウロとバルナバの異邦人救いの証し、それは、まさしく主イエスが成された、異邦人たちへの救いの恵みです。

主の恵みの証しは、聞く人々の心を和やかにとおおらかに整えて下さるのです。もちろん聖霊のご介入があったことは言うまでもありません。

さて、「使徒たちと長老たちは、全教会と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロとバルナバと一緒にアンティオキアに送ることに決めた」とあります。この問題は、責任ある者たち全員で結論を出すべき重要な問題であったからです。エルサレム教会は、その指導者の中からバルサバ(ユダ)と、シラス(シルノワ)を、アンティオキアに遣わすこととなります。

さて、主の兄弟ヤコブを中心として、この書簡の言葉が書かれますが、実際に書いたのは、有能な書記であったシラスだと言われています。

「聖霊と私たちは、次の必要なことの他には、あなたがたに、それ以上のどんな重荷も負わせないことを決めました。すなわち、偶像に供えたものと、血と絞め殺したものと、淫らな行ないを避けることです。これらを避けていればそれで結構です。祝福を祈ります。」この時の事を基にして、使徒パウロは、「御霊による一致」を強く勧めています。エペソ書によれば、『あなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しに相応しく歩みなさい。謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて御霊による一致を熱心に保ちなさい。』と。

教会は、一人一人が、御霊による一致を求めて行く必要があります。その為には、私たち一人一人が、「御霊の人」となり、御霊の九つの実(愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制)を実らせて行く必要があります。そうすれば、まだ主を知らないこの世の人々に対して、大きな影響力を与える存在になって行くのです。大切なことは、み言葉(聖書)によく耳を傾け従うことなのです。主と共に歩み続けましょう。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、3月27日(日)通常とおり午前10時からとなります。また4月3日(日)の礼拝は、午後2時からとなります。ご注意ください。